



会社名 J. フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問い合わせ先 財務戦略統括部 I R推進部
 TEL 03-6865-7621

2022年12月度 J. フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	12月度	累計	12月度	累計
百貨店事業	3.7	7.0	8.7	11.1 (11.7)
SC事業	7.7	6.9	10.3	12.3
デベロッパー事業	27.7	15.8	27.7	15.8
決済・金融事業	5.7	11.7	5.7	11.7
その他	2.1	3.8	▲ 3.3	▲ 2.5
連結合計	6.0	8.3	8.9	11.0

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業(パルコSC)」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。百貨店事業の()内は、松坂屋豊田店の値を控除した増減率を示しております。
 5. (株)大丸松坂屋百貨店は、2021年9月1日付で(株)大丸松坂屋セールスアソシエイツを吸収合併しました。
 6. 当社は、2022年2月28日付で㈱ディンプルの株式の90%を譲渡し、連結の範囲から除外しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 12月度の売上高は、ラグジュアリーブランド、宝飾品が引き続き好調であったことに加え、婦人アパレルや菓子・惣菜などクリスマス、年末年始に関する売上も伸長したことにより、大丸松坂屋百貨店合計では対前年9.6%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同8.7%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は対前年966.6%増(客数同4287.7%増、客単価同▲75.7%減)であった。
- 大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年5.7%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の1月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、初売り、クリアランスセールともに堅調に推移し、ラグジュアリーブランドも好調を維持していることなどから、15日までの累計で、対前年13.2%増(対2019年度▲13.0%減、対2018年度▲17.0%減)、国内売上高は同8.4%増(対2019年度▲7.7%減、対2018年度▲15.0%減)で推移している。
 また免税売上高は対前年570%増(対2019年度▲58%減、対2018年度▲42%減)で推移している。

2) SC事業

- 12月度の取扱高は、全国旅行支援による国内観光客の増加、入国制限の緩和によるインバウンド客の拡大などにより、都心店舗を中心に来店客数が増加し、取扱高も好調に推移した。
- 消費行動が活発化する中で、先月に引き続き飲食が対前年21.9%増、旅行や映画などのサービスが対前年13.7%増となったほか、クリスマスから年末の需要も盛り上がり、衣料品が対前年6.9%増、身の回り品が対前年8.3%増、雑貨が対前年16.6%増など、全アイテムが好調に推移した結果、全店計で対前年10.3%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J. フロント建装が、百貨店改装関連工事が引き続き好調に推移したことに加え、パルコスペースシステムズも増収となったことなどから、前年実績を大きく上回った。
- 決済・金融事業のJFRカードは、加盟店手数料、年会費受入れが着実に増加したことにより、増収となった。
- その他は、(株)ディンプルを連結範囲から除外したマイナス影響があったものの、卸売業の大丸興業が、自動車部品の好調継続などにより増収となったことから、トータルで増収となった。

【お問合せ先】 J. フロント リテイリング株式会社
 ・ I R推進部 TEL 03-6865-7621
 ・ グループ広報推進部 TEL 03-6865-7616

2022年12月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	12月度		累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	27.3	35.1	26.6	36.0
大丸 梅田店	▲2.2	18.7	5.1	19.0
大丸 東京店	17.6	28.6	22.6	42.0
大丸 京都店	15.4	5.0	14.8	9.4
大丸 神戸店	10.4	▲0.7	9.7	3.4
大丸 須磨店	▲1.2	▲0.3	▲2.2	1.5
大丸 芦屋店	2.9	1.0	▲1.4	▲1.6
大丸 札幌店	13.2	12.2	14.9	17.4
大丸 下関店	▲0.9	▲8.3	▲2.2	▲4.7
松坂屋 名古屋店	2.8	7.3	8.1	7.9
松坂屋 上野店	7.1	5.1	7.3	9.3
松坂屋 静岡店	▲6.1	▲0.0	▲4.7	9.8
松坂屋 高槻店	▲0.6	4.7	▲0.0	6.0
店 計	9.6	13.5	11.4	16.6
既存店計	9.6	13.5	12.1	17.2
法人・本社等	9.5	-	21.7	-
大丸松坂屋百貨店合計	9.6	13.5	11.8	16.6
うち商品売上高	9.5	-	11.9	-
うち不動産賃貸収入	11.9	-	6.9	-
既存店計	9.6	13.5	12.4	17.2
博多大丸	1.4	2.7	6.4	12.2
高知大丸	▲8.5	▲1.4	▲4.9	3.7
百貨店事業合計	8.7	12.6	11.1	16.2
既存店計	8.7	12.6	11.7	16.8

※注) 1. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、松坂屋豊田店の前年実績値を含みません。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	12月度	累計
紳士服・洋品	6.9	8.7
婦人服・洋品	18.7	19.9
子供服・洋品	3.9	0.9
その他の衣料品	0.9	0.8
衣料品計	16.1	17.3
身回品	7.8	6.1
化粧品	13.2	10.0
美術・宝飾・貴金属	11.0	14.2
その他雑貨	15.2	14.3
雑 貨 計	12.1	12.5
家具	3.9	5.8
家電	8.9	12.1
その他の家庭用品	▲4.7	▲4.7
家庭用品計	▲2.7	▲2.2
生 鮮	▲1.5	▲2.5
菓 子	5.7	9.7
惣 菜	1.4	4.3
その他食料品	▲0.3	1.3
食料品計	1.8	4.2
食堂・喫茶	14.1	23.5
サービス	▲6.6	8.4
そ の 他	14.3	14.3
合 計	9.5	11.9

3. 営業概況

婦人服・洋品では、コート、ジャケットが活発に動いたほか、ラグジュアリーブランドも好調を継続した。紳士服・洋品では、コート、ブルゾンなどが好調に推移した。身回品では、旅行用品やハンドバッグ、アクセサリが売上を伸ばした。雑貨では、化粧品、宝飾品が2桁増となった。食料品は、生鮮食品が苦戦したものの、おせち、クリスマスケーキは好調に推移した。

2022年12月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	12月度	累計
札幌PARCO	24.7	26.2
仙台PARCO	0.3	9.0
新所沢PARCO	▲13.3	▲8.5
浦和PARCO	5.5	8.9
池袋PARCO	13.2	22.0
PARCO_ya上野	6.6	6.1
ひばりが丘PARCO	1.1	6.3
吉祥寺PARCO	4.9	4.3
渋谷PARCO	29.4	26.7
錦糸町PARCO	14.3	16.8
調布PARCO	5.6	8.1
津田沼PARCO	▲2.3	▲2.1
松本PARCO	▲0.6	1.4
静岡PARCO	▲4.9	▲1.7
名古屋PARCO	18.0	18.1
心斎橋PARCO	33.5	25.8
広島PARCO	▲1.9	1.5
福岡PARCO	5.3	10.7
全店計	10.3	12.4

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	12月度	累計
衣料品	6.9	8.2
身回品	8.3	10.9
雑貨	16.6	17.0
食品	3.1	3.1
飲食	21.9	30.1
その他	8.9	12.6
合計	10.3	12.4

3. 営業概況

- ・12月度の取扱高は、全国旅行支援による国内観光客の増加、入国制限の緩和によるインバウンド客の拡大などにより、都心店舗を中心に来店客数が増加し、取扱高も好調に推移した。
- ・消費行動が活発化する中で、先月に引き続き飲食が対前年21.9%増、旅行や映画などのサービスが対前年13.7%となったほか、クリスマスから年末の需要も盛り上がり、衣料品が対前年6.9%増、身の回り品が対前年8.3%増、雑貨が対前年16.6%増など、全アイテムが好調に推移した結果、全店計で対前年10.3%増となった。